

分野・専門名：フランス語フランス文学

試験科目：

【正解・解答例】

I. 論述問題

フランコフォニーが持つ多様な言語と文化のあり方を、地理的広がり、歴史的経緯、共同体としての役割、各地域の母語や多言語主義との関係などに関する知識を踏まえて、具体的な事象に照らして説明できるかどうかを測定する。フランス語を共通の言語・価値観として共有しつつも、言語や文化の多様性を尊重している状況に関する情報を盛り込むことが望ましい。

『ジラール・ド・ヴィエヌヌ』、『アスプルモンの歌』、『ルイの戴冠』、『オランジュ陥落』など、武勲詩作品の多くで、カール大帝、あるいはその息子のルードヴィヒの時代を背景とし、二人が登場人物としてしばしば登場する、しかし、多くの場合、彼らとは別に主人公がいることを、作品のあらすじに基づいて解説することがポイント。あるいは、『ロランの歌』のように、カール大帝時代の歴史事実に取材している例を取り扱い、歴史事実と作品内容の関係性を解き明かそうとした個人主義理論と伝承主義理論の対立について論じても良い。

19世紀から現代の文学批評の流れを説明する。さらに、具体的な作品をとりあげて研究の方法論を提示する。

II. 仏文解釈

産業革命後の近代文学の潮流を把握し、科学の発展が文学に与えた多様な影響について書かれた文章を的確に読解すること、一般言語学の基本的な考え方を大まかに理解し、文章を適切に和訳することが求められる。基本語 6500 語程度の語彙力が欠かせない。文法事項としては省略構文や条件法のニュアンス、関係詞構文などの理解が大きなポイントとなる。

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学評釈[一]

【正解・解答例】

問一

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問二 『和泉式部日記』。弾正宮宗尊親王の死の悲しみに暮れていた女（式部）のもとに、弟の帥宮敦道親王から花橘に寄せた手紙が贈られてきたことから二人の交際が始まる。次第に恋は高まり、遂に女が宮の邸に入るまでの経緯を、和歌の贈答を中心に語る。作者は和泉式部自身と考えられるが、「女」と呼称し、また知り得ないはずの宮邸の様子も描かれている。日記というよりも、三人称的・全知的視点で語られた、むしろ歌物語的作品であり、『和泉式部物語』とする本も多い。

この場面は、まだ二人の交際が始まったばかりの時点のもので、五月の代表的な景物であるほととぎすや五月雨を踏まえた和歌の贈答によって、すれちがいつつも二人の仲が深まってゆくさまが語られている。

分野・専門名：日本文学

試験科目：日本文学評釈（一）

【出題の意図】

問一 古典文法・語彙・和歌の知識を踏まえ、正確に古典の文章を読解し、物語の内容を把握できる学力を問う。また古文の文章をわかりやすい現代語に訳する能力を問う。

問二 日本の代表的な古典作品である『和泉式部日記』の基本的な内容を把握していることを問う。

分野・専門名： 日本文学

試験科目： 日本文学評釈〔二〕

【正解・解答例】

問一

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問二

冒頭文は、四季の風景を描いて心情を表す「序文的な文章」であり、『古今和歌集』序や『源氏物語』など、和漢の文学に共通する伝統的な形式に連なるものである。とくに春の「あけぼの」を讃える表現は古来多く見られ、「白く」という語は漢詩（蘇軾）とも響き合う巧みな表現だと指摘する。また、冒頭以後は詩歌の引用に頼るのではなく、『枕草子』そのものの文章の巧みさに注目すべきであり、自然や事物、名称、故実などを明らかに示す知識的・記録的な書物として読む必要がある、ということを述べている。

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学評釈〔二〕

【出題の意図】

江戸時代まで日常的に用いられた「くずし字」（草書体・行書体で記された仮名・漢字）を正しく翻刻し、文学作品の写本や版本の内容を正確に読解することができるか。

分野・専門名： 日本文学

試験科目： 日本文学史 [一]

【正解・解答例】

なし

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学史 [一]

【出題の意図】

古代から近現代にいたる、日本文学史および書誌学に関する幅広い知識を問う。自身の設定したテーマに沿って、明快に論述できる学力を問う。

分野・専門名： 日本文学

試験科目： 日本文学史[二]

【正解・解答例】

①『万葉集』最多の女流歌人。異母兄旅人の妻の死後、大宰府に下り、刀自として一族を支えた。甥で婿となる家持の初期の詠歌には、指導の影響が顕著である。祭神歌・尼理願を悼む歌・怨恨歌など多様な歌を作るが、いずれも相聞歌的な発想と表現を基盤としている点に特徴がある。

②鎌倉時代中後期の歌人。祖父雅経以来の和歌・蹴鞠によって、伏見天皇や宗尊親王に仕え、京都と鎌倉を往還した。家集に『隣女和歌集』。『嵯峨の通ひ路』は、藤原為家・阿仏尼夫妻に古典を学んだ際の記録。伏見天皇の春宮時代には『弘安源氏論議』にも加わり、学識を示した。

③平安時代前期の歌人。逢坂の関に住んだ盲目の琵琶法師、醍醐天皇の皇子などといった伝承をもち、さまざまに説話化されている。

『後撰集』にその作と伝える「これやこの行くも帰るも別れつつ知るも知らぬも逢坂の関」は『百人一首』にも採られ有名。謡曲『蝉丸』は、狂女となった姉逆髪との逢坂での出逢いと別れが語られる。

④明治・大正・昭和期の詩人、随筆家。キーツなどの英詩の影響を受け、ソネット形式を最初に導入したことで注目される。古語を用いた高踏的な作風で、同じく象徴派詩人の蒲原有明と並び称せられた。『白羊宮』所収「ああ大和にしあらましかば」や『二十五県絃』所収「公孫樹下にたちて」は特に愛唱された。大正以後は『茶話』『艸木虫魚』などの随筆を多く書いた。

⑤平安時代中期の仏教説話集。『三宝絵詞』とも。源為憲の編。若くして出家した尊子内親王（冷泉皇女）に献呈された。上中下三巻で、仏法僧の三宝の功德を説く。『日本霊異記』からの引用も多い。当初は絵を伴っていたが、本文のみで現存しない。平仮名本・変体漢文本・漢字片仮名本に区分される。

⑥二条良基が編集した南北朝時代の准勅撰連歌撰集。『日本書紀』『万葉集』をはじめ、平安時代や鎌倉時代の歌学書・和歌の撰集・私家集・史書・物語・随筆・説話集その他の典籍から選び出された短連歌その他と、鎌倉時代以後当代に至る百韻・千句・万句その他の長連歌の懐紙あるいは句集から選び抜かれた発句や付句から成る。

⑦江戸時代に仏教の教えを広めることを目的として著述され、書写・刊行された通俗的な教導用の書籍のこと。体裁のほか、用いら

れる表記も漢文・片仮名・平仮名とさまざまで、内容も仏書を解説するもの、説話を集成したもの、寺院や仏像の縁起譚や高僧の伝記など多岐にわたる。

⑧江戸時代後期の国学者。武蔵国多摩郡の人。村田春海と漢学の古屋昔陽に師事。蔵書は5万巻におよび、考証に力をそそいだ。水戸藩主徳川斉昭にまねかれ、彰考館で講義した。平田篤胤、伴信友とともに当時の三大家といわれる。弘化4年に65歳で没した。著書に松屋筆記』『松屋叢考』などが知られる。

分野・専門名： 日本文学

試験科目： 日本文学史[二]

【出題の意図】

古代から近現代にいたる、日本文学史および書誌学に関する幅広い知識を問う。

分野・専門名： 中国語中国文学

試験科目： 専門科目

【正解・解答例】

大問 1

a. 結合価

【解答例】

動詞がとる必須の項の数のこと。中国語では“价、配价”などと呼ばれる。ある原子が他の何個の原子と結合するかという原子価の概念にならったものである。具体例で見ると、目的語をとらない自動詞の“休息”などは一価動詞であり、3つの名詞性成分と結びつく“给”などは三価動詞である。

b. “陈述句”

【解答例】

事実を述べる文のことで、「平叙文」などと訳される。文はその機能に基づいて平叙文、疑問文、命令文、感嘆文などに分けられるが、平叙文とは、人・物・出来事などに対して叙述、描写、判断、説明などを行うものである。肯定文と否定文から成り、書き表す場合には文末に句点（。）をつける。

c. 孳乳字

【解答例】

『説文解字』許慎の叙に「(文者物象之本)、字者言孳乳而寔多也」とある。「文」(初文)から、會意や形聲の原理によって派生した「字」(後起字)を言う。例えば「或」から「惑」や「國」、「北」から「背」、「然」から「燃」、「匈」から「胸」のように、偏旁を加えることで増殖した文字である。

d. 字樣書

【解答例】

南北朝の戦亂を経て字體が混亂したことから、唐代に入り異體字を分別し正字を定めた一連の書を言う。字樣書のさきがけとして、顔師古の『顔氏字樣』（『五經字樣』）がある。五經の文字の異同を吟味し五經を校定し『顔氏定本』を作成した。この定本に則って『五經正義』が作られた。その後の字樣書の基礎となり、とくに顔元孫の『干祿字書』における正字、通字、俗字の策定は、科擧の用字の基準となった。

e. 老舍

【解答例】

中国民国期を代表する作家の一人で「人民芸術家」と称されている。北京出身、満洲旗人の家に生まれ、教員をつとめながら創作を始め、『小説月報』に多くの小説を寄稿し作家として認められ、専業作家となる。抗戦期から建国期にかけて文学界の要職を歴任した。文化大革命初期に激しく批判された翌日、北京の太平湖で死亡が確認された。代表作に北京を舞台とした長篇小説「駱駝祥子」「四世同堂」、戯曲「茶館」等がある。

f. 尋根文学

【解答例】

「尋根」とは70年代米国の作家ヘイリーの『ルーツ』に端を発し、「尋根小説」は1985年頃に隆盛した。文化大革命を経験した知識青年作家が中心となり、動揺や幻滅を背景に生まれた。傷痕文学や反思文学を経て形成され、民間の生活や伝統文化から民族の特色と精神的活力を見いだす一方、国民性の問題点を批判的にとらえしようとした文学である。代表的作家に韓少功、阿城などがいる。

g. 院本

【解答例】

金・元代に行院で演ぜられた演劇の脚本、及びその劇種を指す。數人で演じる短い劇と推測されている。脚本は既に佚しているが、演目は陶宗儀『南村輟耕録』の「院本名目」に著録されており、その一端をうかがうことができる。

h. 『京本通俗小説』

【解答例】

民國初に繆荃孫により刊行された短編白話小説集。その跋では元代寫本の殘本を發見し

それを覆刻したと稱しているが、現在は明末・馮夢龍編『警世通言』等に見える作品の一部に若干手を加え、南宋の作らしく見せかけた偽書と見られている。

i. 『列異伝』

【解答例】

魏曹丕撰とされる志怪。志怪の中ではもっとも成立が古いものとされる。原本そのままは残らず、五十条ほどの佚文が魯迅『古小説鈎沈』で収集されている。宋定伯が鬼を捕まえた話など、幽鬼に関するものが多い。

j. 初唐四傑

【解答例】

初唐時代に優れているとされた詩人四人、王勃、楊炯、盧照鄰、駱賓王を指す。六朝の余韻を残しながらも、清新な詩風をもたらし、特に王勃と楊炯は五言律詩の確立に功績があった。四人とも、北方の出身であり、貴族ではないことも特徴である。

大問 2

2A

(1) 受け身文と使役文はともに「主語＋“叫／让”＋目的語＋動詞」という形から成り、“我叫他打了。”のように「私は彼に殴られた。」という受け身の意味と「私は彼に殴らせた。」という使役の意味に解釈できる例は見られるものの、実際には文脈や動詞、共起成分の影響により、意味が混同されるケースは多くはないことから、それぞれの具体例を挙げつつ論じることができる。文型との関連でいえば、受け身文の“叫”“让”は介詞、使役文の“叫”“让”は動詞と見なされる。また受け身文は“把”構文と対の関係になっているがゆえに、通常は単独の動詞では用いられないなど“把”構文との共通点が見られるのに対し、使役文では動詞を単独で用いることも可能だといった違いについて言及することもできる。

(2) 類義語の用法を通して現代中国語に関する文法知識を問う問題となっている。例えば“还”と“再”については、以下のような使い分けが考えられる。

・疑問文では“还”が用いられる。

例： 你明天还来吗？[明日また来ますか。]

×你明天再来吗？

- ・助動詞を用いた場合、“还”は助動詞の前、“再”は後ろに置かれる。

例：我还想看一遍。[私はもう1回見たい。]

我想再看一遍。[同上]

「“还想再”＋動詞」のように“还”と“再”を同時に用いることもできる。

また、“再”と“又”の基本的な使い分けについては、以下のような事象が挙げられる。

- ・“再”は未実現の事態を表すのに、“又”は実現済の事態を表すのに用いられる。ただし、周期的に起こることや確実に起こることについては、未実現であっても“又”が使用できる。

例：明天又是星期一了。[明日はまた月曜日だ。]

その他、用例を挙げながら共通点・相違点を論じることもできる。

2B

本問は、近現代中国文学史において極めて有名な作家の作品に関する文章であることが、文中に明示されており、近現代中国文学研究を志すならば必読書であるところの、当該作家の代表作に関する文章である。さらに、文中に引用されている評者は世界文学にも挙がる作家である。そのため、評者と当該作家との文壇上の関係性を踏まえ、さらに当該小説の中の主要人物について把握しつつ、平易な日本語に翻訳されていることが求められる。

2C

(1)

- ・戯曲の體例を理解し、ト書き・セリフ・曲辭及び發言者・歌唱者を的確に把握して翻譯できているか。
- ・前半部分を踏まえ、登場人物間の關係を理解して譯出できているか。
- ・基本的な白話語彙を適切に譯出できているか。

(2)

問一：徐大用という人物が他人に媚びずに自作の樂府を作り続け、陸游に認められないと集を出さないと主張したために、陸游が序文を書いたといういきさつを理解して訳せているか。

問二：たとえば、李白は生前自分の原稿を集にまとめてくれるように李陽氷に託したよ

うに、自作で重要だと思う作品は手許に残し、後世に伝えたいという意志が強いということが述べられていればよい。

分野・専門名： 中国語中国文学

試験科目： 専門科目

【出題の意図】

大問 1

中国語学・中国文学に関する基礎知識を測る。

大問 2

2A

中国語文法に関する専門知識について、中国語学あるいは中国語教育の観点から論述できる力を測定する。

2B

近現代中国文学に関する現代中国語の文章を、文脈を把握しつつ、正確な日本語に翻訳する力を問う。

2C

(1) 中国古典(白話)の語彙・語法の知識と、古典文学(白話)の文章を正確に理解する力を測定する。

(2) 中国文学史に関わる資料について、専門的な知識を持っており、読解ができるかを問う。

分野・専門名： 哲学

試験科目： 専門問題

【正解・解答例】

この問題に唯一絶対の正解はないが、優れた解答は以下の観点から総合的に評価される。

知識・理解力：

参照する哲学的立場や議論の核心を正確に捉え、その思想がどのような文脈や問いから生まれたのかを理解した上で、適切に説明できているか。単なる用語の羅列や受け売りの説明ではなく、内容を自らの言葉で咀嚼し、再構成できているかが問われる。

分析・批判的思考力：

参照する哲学的立場を、その長所や短所、歴史的な文脈や現代的意義など、多角的な視点から分析・検討できているか。単に学説を要約するだけでなく、その議論の前提となっている問いや論理構造を批判的に捉え、テーマに対する深い洞察を示せているかを評価する。（複数の立場を比較検討する場合も、この基準が適用される。）

論理性・構成力：

記述されている内容について、その根拠や理由が明確に示されているか。文章全体がテーマに即しており、部分間のつながりが論理的で、矛盾や飛躍のない一貫した議論となっているかを重視する。

表現力：

哲学的思索を、曖昧さを排した明晰かつ的確な語彙と文章で表現できているか。複雑な概念を平易な言葉で説明したり、専門用語を正確に用いたりする言語運用能力を評価する。

分野・専門名： 哲学

試験科目： 専門問題

【出題の意図】

本問は、哲学における普遍的かつ根源的な諸課題について、特定の学説の知識量だけでなく、歴史的・現代的を問わず様々な哲学的議論を主体的に理解し、それらを批判的に考察しながら自らの見解を論理的に構築・表現する能力を総合的に評価するものである。

分野・専門名： 哲学

試験科目： ギリシア語

【正解・解答例】

「アテナイの人々よ、私はあなたたちに親愛の情を寄せていますが、あなたたちよりはむしろ神に従うでしょう。私の息が続く限り、その能力がある間は、知を愛し求めること（哲学すること）をやめることは決してないでしょうし、あなたたちの誰に会おうともその度に勧告し指摘することをやめることもないでしょう。その際には、私がいつも語り慣れているような次のようなことを語るのです。

『最も優れた人よ、あなたは、知恵と力にかけては最も偉大で最も評判の高い都であるアテナイの人でありながら、金銭ができるだけ多く自分のものになるようにと配慮し、また評判と名誉については配慮しながら、その一方で、思慮と真理、そして魂ができるだけ善きものになることについては、配慮もせず、気にもかけないのを、恥とは思わないのですか』と。

そしてもし、あなたたちのうち誰かが異議を唱え、（魂への）配慮をしていると言うなら、私はすぐにその人を放免したり、立ち去ったりはせず、彼に問いかけ、調べ、吟味するでしょう。そしてもし、私には彼が徳を持っていないのに持っているように思われたなら、私は彼を最も価値あるものを最も軽んじ、よりつまらないものをより重んじていると叱責するでしょう。」

分野・専門名： 哲学

試験科目： ギリシア語

【出題の意図】

本問は、西洋古代哲学研究の基盤となる古典ギリシア語の原典読解能力を問うものである。ここでは、辞書等の補助を用いつつも、複雑な構文や多義的な語彙を文法規則に則り厳密に分析する文献学的基礎力が求められる。

同時に、古代哲学における代表的な議論（魂への配慮、イデア論、幸福と徳の関係等）についての基礎的な理解を有していることが望ましく、テキストが提示する哲学的論理の展開を内在的に追跡できるかどうかも重視される。

したがって本問は、単なる逐語的な置き換えにとどまらず、原典の持つ思想的ニュアンスや論証構造を損なうことなく、論理的整合性を持った学術的な日本語として再構成する表現力を総合的に評価するものである。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学問題 1

【正解・解答例】

解答のポイント

犠牲

- ・古代世界において、「犠牲」が文学作品中で中心的主題となっていたり、それが物語のプロットを左右しているものにはどのようなものがあるか(例:『アウリスのイピゲネイア』)。
- ・古代における犠牲の儀式にはどのようなものが存在し、何が犠牲として捧げられるのか。また、なぜ「犠牲」ははらわれるのか。

書簡

- ・書簡は西洋古典文学の中で一ジャンルとして成立しているが、それらにはどのようなものがあるか(例:キケロの書簡集、『ヘーロイデース』など)。
- ・古代世界における書簡についてどの程度理解しているか(例:キケロの場合にはティロが書記をしていたことがわかっている、書簡の行き来は各家庭の奴隷が担っていた、など)。

樹木

- ・樹木が作品中に登場するものにはどのような作品があるか(例:『アエネーイス』、『変身物語』、『植物誌』、『博物誌』)。
- ・それぞれの作品中で、樹木がなぜ登場するのか。例えば『変身物語』ではダフネがアポロンから逃れられるよう懇願し、月桂樹に姿を変える。他方、『植物誌』や『博物誌』では、植物や樹木について百科事典的に説明している。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学問題 1

【出題の意図】

西洋古典世界の文学作品や社会を理解する上で重要な要素となるトピックを理解しているのか、そしてこれらのトピックがどのような作品やコンテキストで登場し、いかなる役割を担っているのかという点を理解しているか問う。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学問題 2

【正解・解答例】

解答のポイント

- ・「ホメロス問題」と呼ばれる論争では、どのようなことが議論されてきたか。
- ・『イリアス』と『オデュッセイア』の作者についてどのような議論がなされてきたか。
- ・方言やエピセツなどを手掛かりとして、どのような文学作品分析が行われてきたか。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学問題 2

【出題の意図】

西洋古典学分野において、英雄叙事詩を論じる際に例証等で使用される「ホメロス問題」についてどの程度の知識を有しているかを問う。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 専門英文の読解

【評価の観点】

- ・主語と述語の関係性が明確に示された日本語の文章になっているか。
- ・研究者の対立する意見を正確に理解して翻訳できているか。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 専門英文の読解

【出題の意図】

文学作品と図像資料との関連性については、昨今研究の進展が顕著であり、出題に用いた著作は、古代世界における図像とテキストの関係性について、異なる文学作品や資料を元に論じたものである。『イリアス』や『オデュッセイア』の中で語られる話が古代の美術にどの程度関係しているかを論じた二人の研究者の論点を正確に捉えているかを見る。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 古典ギリシア語

【評価の観点】

- ・ギリシア語の文法事項を理解しているか。
- ・主語と述語の関係性が明確に示されているか。
- ・人称・時制などの翻訳に誤りがないか。

分野・専門名：西洋古典学

試験科目：古典ギリシア語

【出題の意図】

古典ギリシア語で書かれた平易な文章を、辞書の力をかりて読解できるかどうかを見ることで、西洋古典学を専攻する上で必要な能力を有するかを測る。